



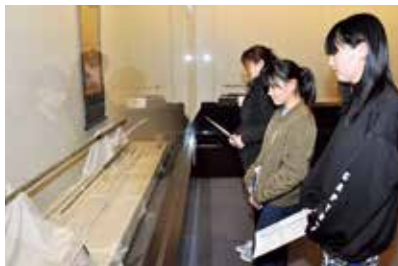
# 市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 「音にきこゆる 刀剣のまち島田」 で観光を盛り上げる

島田市は、室町時代から江戸時代に至る 400 年間、鍛冶集団が活躍する「刀剣のまち」であったことをご存知でしょうか。「嶋田の町、是れ又、音にきこゆる鍛冶の在る所…」と、16 世紀の古文書にも記されており、往時の街道には、世に知られた刀鍛冶のカン、カン、カンという相槌の音が響いていたことでしょう。

そもそも、島田宿と金谷宿の周辺には、刀の精錬に最適な炭（相賀の赤松林）と良質な砂鉄（大井川）があり、金谷の「金」は砂鉄を意味す



展示物に見入る来館者

るともいわれます。室町時代から安土桃山時代には、御手杵の槍を作った島田鍛冶の鍛冶頭「義助」、さまざまな作風を使いこなした「助宗」、今川義元の下で活躍した「元助」、豪壮な刀を得意とした「広助」など、代表的な刀鍛冶が生まれています。戦国時代になると、京にまで島田鍛冶の名は轟き、北条・武田の両家からも作刀を依頼され、徳川家康の脇差にも島田鍛冶が選ばれました。江戸時代に入って平和が訪れると、戦で使う量産品の刀を多く作っていた島田鍛冶の経営は大きな打撃を受けましたが、戦国時代以来の由緒を守りつつ、島田の地で作刀を続けていました。

しかし、その成り立ちには不明な点が多く、市では、

わずかに残った史料を手がかりに島田鍛冶のルーツや実態に迫るべく調査を進めました。現在、その成果を企画展「島田の刀鍛冶と天下三名槍」として、島田市博物館で紹介しています。今回は、代表的な刀工義助、助宗、広助たちの槍・刀・剣、そして秋葉山本宮秋葉神社に奉納された刀剣、また武田信玄が所持していたと伝えられる助宗作の「おそろく造り」の短刀など、島田鍛冶ゆかりの刀剣三十数点を展示しています。

さらに、見逃せない展示として、天下三名槍といわれている「蜻蛉切」「日本号（写）」「御手杵（レプリカ）」の展示が2月25日(土)から3月5日(日)まで(27日(月)休館)、期間限定で実現します。三名槍が揃うのは、全国初の試みです。刀剣ブームの昨今、この8日間に全国から約1万人の観光客が訪れると見込んでいます。単に博物館の企画展に留まらず、関係諸団体の皆さんと連携して、観光客がまちなかを散策する工夫を凝らし、「刀剣のまち島田」を売り込んでいきたいと考えています。今後は「刀鍛冶のまち島田」「刀剣のまち島田」のブランド化に力を入れて育てていきます。



商店街に掲げたのぼり

ぜひ、この機会に皆さんも博物館へ足を運んでいただき、刀工たちが歴史に残した鋼の輝きを通じて、島田の歴史と文化、その誇りを感じていただければ幸いです。

## みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

道悦島地区社会福祉協議会では、日常生活の困り事を住民同士で助け合う「道悦島応援隊」の発足式を、1月17日に六合公民館で行いました。「地区社協」は、住み慣れた地域で快適に暮らしていくために、住民が中心となって、地域の福祉課題を解決しようとする活動です。

道悦島応援隊が行うサービスは、ゴミ出しや家の掃除、電球交換などの日常生活支援で、高齢者などが会員登録をした上で利用できます。料金は、気兼ねなく利用しても

らうために、「1時間 500円」などの有料制としました。

今後も、助けたり助けられたり、地域の住民が「お互いさま」の気持ちで支え合う体制づくりを目指していきます。(小林強さん：道悦島地区社会福祉協議会会長)

